

小庭の生垣について

齋 藤 晶

最近、札幌市など人口の集中にしたがって郊外の造成地に新築の家が増え、うるおいを求めて庭をつくる家が多くなった。庭をつくる時、ブロックへいより生垣ということで、現場にも、生垣のつくりかたについていくつか問い合わせがあるので、ここで簡単に述べてみたい。

生垣の役割

境界の表示、侵入防止、通風、日照のコントロール、保温、防風、目かくし、芝生や、植栽木の保護、庭園のデザインの引きしめなどがある。特に小庭をもつ住宅での生垣はその必要性が高く、調和と美観には欠かせない。近年コンクリートやブロック塀をよくみるが風情がない。手人のよくいきとどいた生垣の美しさは格別で芸術品といってよい。

生垣に使われる樹種

生垣をつくるためにはまずその地方の環境にあった樹種の選定からはじまる。選定にあたっては次の条件の備っているものとする。

1. 手人によって下から上まで枝葉が密生し枝が複状にでるもの。
2. 刈込をしても樹勢のつよいもの。
3. かなりの日陰にも耐え、なお環境に適応できるもの。
4. 病、虫害につよい樹種
5. 気象害（凍害、雪害）につよいもの。
6. 色がよく、持久力のあるもの。

以上があげられて、道内の生垣樹種には次のようなものがある。

表 道内における生垣適樹の判定

適・良 普通 ×不適・不良

種類	樹種	樹勢	刈込	色	外観	分岐力	密度	持久力	環境 適応性	苗木 入手	移植	病害	虫害	気象害			判定	備考			
														雪害	寒害	風害					
針葉樹	イチイ	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	適			
	ニオイヒバ	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	○	○			
	トドマツ	○	×	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	小庭に 不適	
	チョウセンゴヨウ	○	×	○	○	△	△	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	小庭に 不適
	カラマツ	○	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ヨーロッパトウヒ	○	×	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	小庭に 不適
広葉樹	メタセコイヤ	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△	やや適	道南 のみ適	
	イチヨウ	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	適	小庭に 不適	
	アメリカメギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	イボタノキ	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	
	カツラ	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	やや適		
	ライラック	△	△	○	△	○	△	△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△	○	○	道南 のみ適
	ボケ	△	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○	○	適		
	ゲンバイウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	
	ドウダンツツジ	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	△	△	○	○	○	やや適	道南 のみ適	
	ツルウメモドキ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	適		
	グミ	○	○	△	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	
	ムクゲ	○	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	道南 のみ適
	ハルニレ	○	○	△	△	○	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ポプラ	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	小庭に 不適
	イタヤカエデ	○	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	小庭に 不適
レンギョウ	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	道南 のみ適	
ツルバラ	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	道南 のみ適	
シラカンバ	○	△	△	△	×	△	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

生垣づくりの順序

生垣をつくる手順として前述の中から次の点を考慮して樹種を決定し計画する。

1. 苗木の入手ができるか。

2. どんな生垣の型にするかをきめる。
3. 植付時期、植える位置を検討する。
4. 土壌とか水分についてよいかをあらかじめ知識のある人にみてもらう。

以上の計画ができ準備がととのったら植付をはじめてよい。

生垣用樹木の植栽要領

1. 生垣は境界線より内側に植え、生垣の厚みだけ引きこめればよい。
2. 刈込垣に使用する苗木の大きさは70～90cm のものがよい。そして剪定をくり返しつづ所定の高さに仕あげる。はじめに大苗を使用すると出来あがり早いですが、生垣の姿はよくない。
3. 生垣をつくるための樹木は普通一列植とし、苗木の間かくは40～60cm ゆがよく、苗の大きさと根張りによって植穴を掘り、穴には若干の堆肥と固形肥料（苗木1本あたり5～6ヶ）が化学肥料を施す。

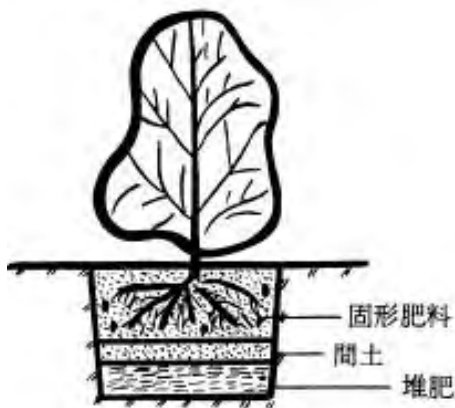


図-1 固形肥料の施し位置

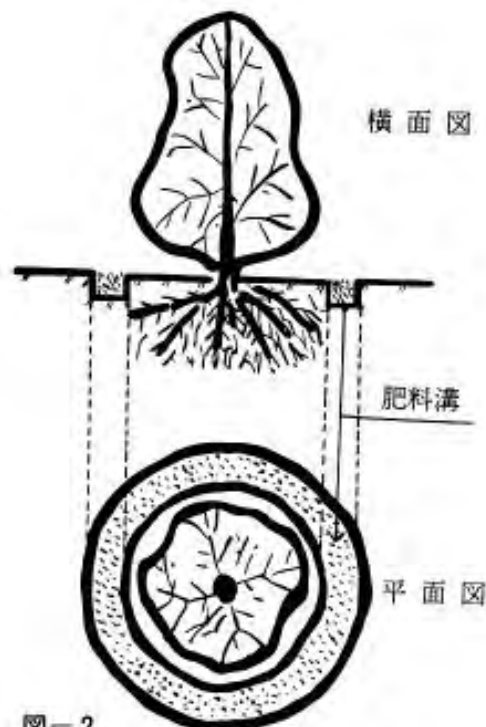


図-2 化学肥料の施し位置(単肥N.P.K.)

4. 植付の適期は4月下旬～5月上旬であるが、おそくとも5月中旬まで終るようにする。おそくなると気温が高くなり、蒸散がさかんになり活着がわるくなる。
5. 植付を終わって2ヶ月ぐらいすると新しい枝がのびはじめるが、植付した年は徒長枝を刈込む程度の軽い手入れでよい。

生垣の刈込と手入れ法

生垣造成のため植えた苗木も2年目に入ると生長もよくなるので、目的にあったような形に刈込をしなければならない。

1. 刈込の時期

刈込時期は年2回で5～6月に1回目をおこない、10月に2回目を実施する。刈込をおこたると下枝が枯れ上って枝葉の密度もあらかなくなって生垣の美が失われてしまう。

2. 切られる枝

生垣をきれいに刈り込むために、徒長枝や横にでる飛枝は切りとらねばならない。そめほか損傷ある枝、枯枝、枯葉はのぞく。

3. 肥料のやりかた

生垣も他の苗木同様、栄養をとるために肥料を与えなければ健全なものにならない。固形肥料ならば図-1のように施し、また化学肥料ならば図-2の要領でやると効果が大きい。

主なる病害

生垣の種類によってことなるが主なる病害とその防除法をのべてみよう。

1. 葉ふるい病

主としてトドマツ、ヒバにつく病菌で、はじめ葉が黄色になり次第に赤褐色から灰色にかわって脱落する。被害は下方から上方に波及していくので早目に落葉を集めて焼却してしまうこと。

2. うどんこ病

広葉樹の葉のうらに発生し、次第に表面にも白い「カビ」がでてくる。おかされた葉は奇形になり秋には黒色の粒点ができる。この病菌は落葉や枝梢で冬を越して翌春伝染するから落葉は秋のうちに集めて焼却するとよい。

3. すず病

すずのように黒くなるのでその名がある。

病菌の多くは植物体の表面をおおって同化作用を害する。すず病はアブラムシ、カイガラムシなどの分泌物の上で繁殖する。この病菌で樹木は死なないが、かなり樹勢がおとろえる。防除法としては風通しをよくしてやることと、ひどい葉はとって焼却する。

うどんこ病の薬剤防除としては硫黄合剤 50 倍またはダイセン水和剤 500 倍を散布すると効果がある。また、すず病は機械油乳剤に少量の硫酸鉛を入れ 30～45 倍にして散布するとよい。

主なる害虫

生垣は大きな虫はあまり食害しないが、アブラムシやカイガラムシがつくので、その防除が必要である。

1. アブラムシ

小さい緑色の虫で、どこでもよくみられる。アブラムシは葉の裏側の脈に沿って集まり、葉を変色させよわらせる。防除としてエカチン液剤を塗布するか、または粒剤を散布すると2～3日で完全に防除できる。

2. カイガラムシ

アブラムシ同様に広葉樹にしばしばつくが風葬しのわるいところの幹や枝について液を吸って樹木をよわらせる。白い粉のように見えるのはカイガラムシである。防除としては硫黄合剤を幹や枝を噴霧するとよい。

以上生垣造成について書いたが、なおくわしくは上原敬二著「樹木の剪定と整姿」などを参考にするとよい。

(樹芸樹木科)